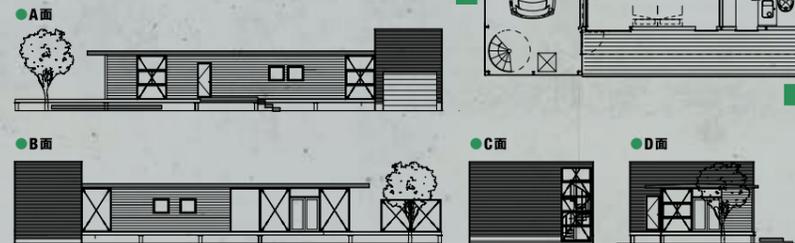


FLOOR PLAN

少し意識的に建物のプロポーションを平面図と立面図から見てもらって、このプランの縦横比率の絶妙なバランスを感じてみてください。京都の竜安寺の石庭の庭石のように、縦の突起とロングテールの取り合わせ。このフォルムが案外しっくりきて飽きが来ないのです。リビングルームからの連続性を意識したテラスには、シンボルツリーの根元にジャグジーバスを設置。同じLGSパネルに半透明のガラスを貼った衝立のようなスクリーンでプライバシーを確保します。高床式で空中にふわりと浮いているのは住居とテラスでガレージ部分はしっかり地に足を付けています。



Theme
崖の上に立つ理想的なプロポーションの
ガレージ付き
フラットハウスの実際例

崖地にあってもコンクリート擁壁を必要としない高床式工法スパイクフラット。
実際例に即してその魅力をクローズアップします。



上/リビングルームからテラスを望む。天井は鉄骨の表面を残して木板貼り。庇との運動性を重視したミッドセンチュリーの作法。空間が外部に伸びていく印象が強調される。鉄骨と木のとりあわせは、柱の表面が少し見える在来工法の和室「真壁」のようなおさまります。左/ガレージに面したメインベッドルームの内観。まるで愛車と一緒に寝ているようなイメージ。スリット窓の光が作り出す陰影もうれしい。

デイトナハウスは、その奪い合いからサッと身軽に離脱したいと考えています。それを実際の山地や崖地でカタチにするのが、現代の高床式工法と言える「スパイクフラット」なのです。

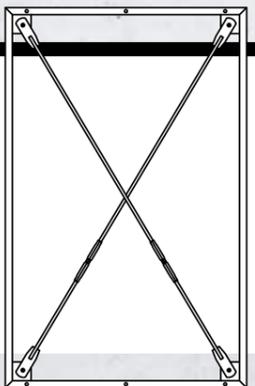
ふわりと空中に浮かび上がって、崖地に張り出すフォルム。その軽快感、フットワークを信条とするデイトナ読者にびつたりなのです。今回は北九州市に実際に計画中のガレージ付きのフラットハウスをご紹介します。この建物は、スパン数という居住部分が3×9、ガレージを入れると3×11です。ガレージ部分は吹き抜けの二層になっており、そこだけが突起しています。一部が突起することで、より縦横比率が強調され、フォルムの美しさが際立つのです。

室内の間仕切りは極力なくしています。小さな書斎スペースを分節したリビングダイニングと、水まわり、寝室の3つの要素から成り立つかわめてシンプルな構成です。リビングから廊下の突き当たりのガレージに眠る愛車の気配を感じながら、崖側の自然と独り占めの青空。まさに至福のリビング空間となっています。

日本列島はその75%が山地です。残りの25%の平地は必然的に地代が高い。その税金や家賃を払うために私たちはひしめき合って生きています。考えてみれば窮屈な話ですね。一方で、今でも中山間部の里山にいくと、長い年月そこに住む人たちが営々と築いてきた美しい石垣が風景を作っています。しかし、その営為が機械力のない時代のことですから、想像を絶する苦勞があったことでしょう。そこまでして山地に住む必然性があったというこの痕跡。古代から現代にいたるまで、形を変えて「平地の奪い合い」が続いているということなのかもしれません。

What's Daytona House?

デイトナハウスを構成するのは、LGSと呼ばれる軽量鉄骨のパネルで、厚さ3.2mm、幅12.5cm、厚み5cmの「Cチャンネル」と呼ばれる部材を、横幅180cm、縦270cmの長方形に溶接して製作しています。対角線のクロスしたパーツは、「ブレース」と呼ばれる筋違いで、力の伝達を受け持つ大切な役割を持っています。「柱」と「梁」と呼ばれる縦と横の部材を使って軸組を作っていく一般的な建築とは違って、デイトナハウスはこのLGSパネルを連結することで住宅、ガレージ、別荘、店舗、マンションなどの様々な建築を可能とする、全く新しいカタチのシステムなのです。つまりこのLGSパネルを使った建物全てがデイトナハウスと言う訳です。パネルの枚数を数えるだけで、建築の広さ、およその予算がイメージできる分かります。パウダーコーティングが施されたその鉄の素材感が醸し出すハードボイルドな空間のテイストも持ち味です。



INFORMATION
LDKinc.

デイトナをはじめ、カーマガジンでの長期連載、ムック本であるCAR&HOMEにて、常にクルマと住宅の関係について提案し続けてきた建築プロデュース会社LDK inc. 建築設計はもちろんのこと、建築システムの開発や商品開発も行う。

代表: 玉田 敦士
WEB: www.ldk.co.jp
TEL: 03-6228-4933

DAYTONA HOUSE OFFICIAL HP
www.daytona-house.com

「**NEWS02**」 **モーターホテル第一弾 出雲プロジェクトも鋭意進行中**
海と艶消し鉄骨のコントラストが見えてきた!!

以前から何度かお伝えしている島根県出雲市のモーターホテルプロジェクトの建築工事も進行中です。敷地は日本海に面する崖上の敷地。モーターホテル棟は鋼管杭を高止まりにして、その上に鉄骨土台を固定してデイトナハウスを建築する高床式工法「スパイクフラット」を用いています。この工法は、地面を掘り進んで巨大なコンクリートの擁壁を作り、自然環境に挑みかかるような建築手法ではありません。“海と崖”。あくまでもその荒々しい自然環境にフワッと浮かび上がるように寄り添うカタチの建築なのです。

前例がないその独特性が、艶消しブラックの鉄骨土台の段階でも感じとれるようになってきました。いよいよこれから上物の建築に移行し、春のオープンを目指します。

それにしても出雲の海は時に荒々しく、時にやさしく美しい、いろんな表情を見せてくれます。特に夕日の美しさは、「日本100夕焼け」に選出されているほどです。西の水平線上に照柿のような夕日が沈んでいく様子は神々しく“西方浄土”という言葉さえ思い起こさせてくれます。このような得難い環境は必ずしも公共交通の便が良くない場所にあるのですが、クルマやバイクで移動する“現代の遊牧民”だからこそ味わえる快楽。これがモーターホテルの真骨頂なのです。

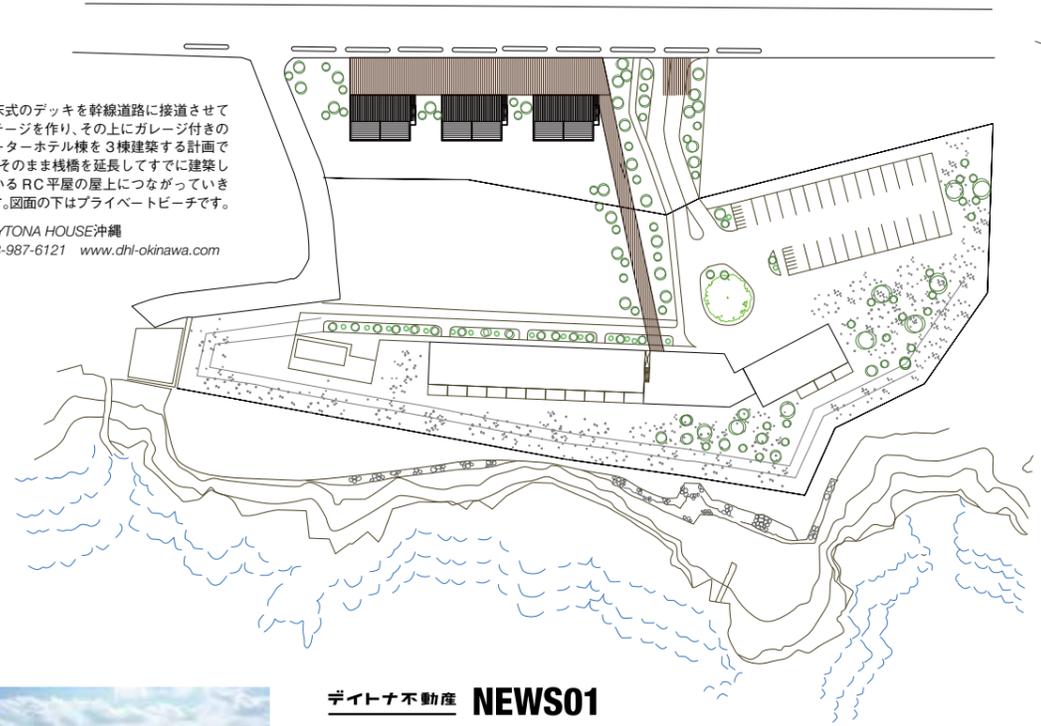


整然と設置された鉄骨土台。やさしい表情の海と硬質な鉄骨のコントラストがたまらない。



左：敷地は30度の安息角に整地をして、杭を打ちます。自然の形質を変えずにスパイク。この軽快感や浮遊感が案外、日本列島に住む昔のひとの作法なのかもしれません。デイトナハウスは自然と一体になるための建築なのです。
右：風の強い日本海の崖地。遠くに風力発電の風車が見えます。

DAYTONA HOUSE×LDK山陰 0853-25-2272 www.daytona-sanin.com



高床式のデッキを幹線道路に接道させてステージを作り、その上にガレージ付きのモーターホテル棟を3棟建築する計画です。そのまま機橋を延長してすでに建築しているRC平屋の屋上につながっていきます。図面の下はプライベートビーチです。

DAYTONA HOUSE沖縄 098-987-6121 www.dhi-okinawa.com

DEI トーナ不動産 **NEWS01**

沖縄県は宮古島でモーターライフリゾート始動!

今注目の宮古島にデイトナハウスのモーターライフが上陸。旧車系アメ車やプレミアムなバイクのレンタルなども完備したモーターライフが満喫できるリゾート計画。完成が待ちきれない!

Text/Atsushi TAMADA

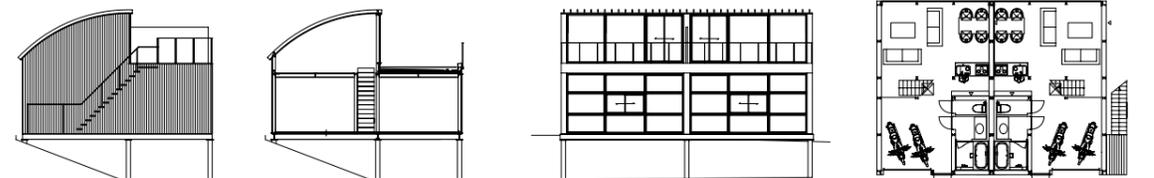


道路からすでに建築が90%完了しているRCのコテージ棟と無限に広がる海を見る。モーターホテル棟の木デッキ機橋が屋上に連結される予定。

真つ青な空と透明度抜群のエメラルドグリーン色の海が素晴らしい宮古島。その対岸にあるやぶりの伊良部島の南側海岸に、この夏の完成を目指して、デイトナハウスのモーターライフリゾート計画が急ピッチで進んでいます。既存の直接海を臨む場所に建築されたRC造りのリゾートコテージが、すでに竣工間近となっています。

そして約3m、地盤のレベルが高い幹線道路側に、3棟6室のモーターホテルをデイトナハウス仕様で建築するのが今回の計画となっています。先述した海側にある平屋のRC棟の広々とした屋上とモーターホテル棟は、木製デッキの機橋で連結され一体化。また、モーターホテル棟は地盤の高低差を利用してどの部屋からも南向きで、海を一望できるレイアウトを採用しています。

宮古島のもう一つの見どころは降るような星空です。風が常時通り抜けるこの島は実に空気が澄んでるのです。旧アメ車を中心としたクラシックカーや、プレミアムなバイクのレンタルシステムも計画中です。コテージはガレージ付きですのでバイクを格納して、夜はそれを眺めながらの仲間との語りも最高に楽しいはず。バイクや名車を駆って宮古島を味わい尽くす旅。この夏ご予定に入れてみてはいかがでしょうか? 詳しくはデイトナハウス沖縄まで。



高床式のモーターホテル棟のフォルム。曲面屋根Rスパンを利用してデイトナハウスらしい特長がある。敷地の傾斜を利用してテラスの上のみならず、1Fの客室からもエメラルドグリーン色の海が一望できる。夜の星も美しい。

2世帯で1棟を構成するモーターホテル棟の平面図。このリビングルームからも海が一望できる。

「**NEWS04**」 **沖縄恩納村のビーチにダイナーが**
いよいよ実現化!?

沖縄県本島の中部に位置する恩納村のビーチに、デイトナハウスの高床式ダイナーいよいよ作戦開始です。場所は58号線から枝分かれした海沿いのきれいな道路に面する好立地。ダイナー要地としてはこれ以上の場所はありません。駐車スペースも十分なので、デイトナハウスのユニークなドライブスルーも用意する予定です。ダイレクトに目的地に行くばかりが旅ではなく、寄り道や迂回路を選択するのがツーリングの妙ですから、その意味でも素晴らしい立地なのです。あらかじめダイナー建築という視線で土地を吟味すること。座標軸のない敷地に考え方の座標軸がしっかりあること。それがリゾート地の商業土地選び、ロケーションを選択するノウハウなのです。



DAYTONA HOUSE沖縄 098-987-6121 www.dhi-okinawa.com

「**NEWS03**」 **浜松市のGLB第二号物件**
鉄骨建て方完了!!

前回ご報告した浜松のデイトナハウスショールームと同じ敷地内に建築中のガレージアパートメント「GLB」。その第二号物件が順調に推移しています。曲面屋根Rスパンの鉄骨下地が取り付けられ、GLBらしいフォルムが浮かびあがってきました。このアパートは3世帯と小ぶりですが、隣にあるライフスタイル型のショールームとの相乗効果で、モーターライフの新しい可能性を感じさせる素晴らしい場所になることでしょう。また、3世帯の内、中央の世帯は新しくお目見えするGLBらせん階段バージョンです、その概要も次回以降報告いたします。この後、屋根工事、外壁工事と推移して、4月にはオープンの運びになります。事前賃貸募集の特設WEBページも作成中ですので出遅れないようスタンパッておいてください。環状線と姫街道がクロスするあたりが建築場所です。



DAYTONA HOUSE×LDK静岡 053-482-7415 www.balancedesign.jp/daytonahouse